

タシロヤモリの奄美大島からの記録*

柴 田 保 彦
大阪市立自然科学博物館

A NORTHWARD EXTENTION OF THE KNOWN RANGE OF *HEMIDACTYLUS BOWRINGII* (GRAY) IN THE RYUKYU ARCHIPELAGO (REPTILIA : GEKKONIDAE)

Yasuhiko SHIBATA
The Osaka Museum of Natural History

ヤモリ類のいくつかの種が、人為的な要素によって分布を拡げていることはよく知られており、特に移動要素の集積場所となる港付近や市街地は新しい棲息地の中心となりやすい。たしかに灯火によって集中的に餌が得られる人家・商店などは、ヤモリ類にとって安定した新しい環境といえるであろう。

日本内地のヤモリをはじめ、琉球列島の数種のヤモリ類の分布圏も、比較的新しい時代に人為的な移動要素に伴って形成された部分が多いものと考えられる。

最近、このような例と考えられるタシロヤモリ *Hemidactylus bowringii* を奄美大島の名瀬港付近で見出した。

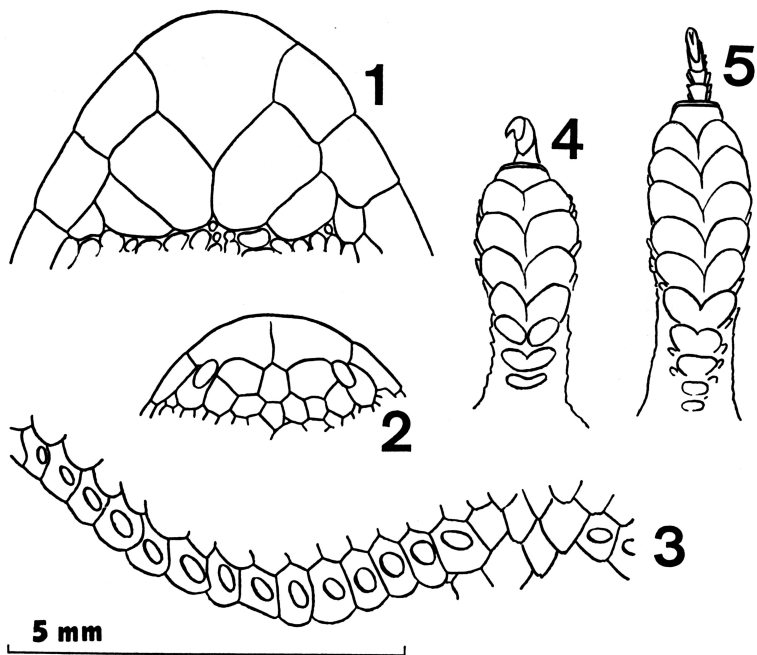
1 ♂ (OMNH. R-288). Minato-chô, near the port of Nase, Is. Amami Oshima. (found at night on the mortar wall of a shop, where it gathered around a light) ; 23 July 1964 ; Y. Shibata leg.

Measurement : snout-vent, 46.5mm. ; vent-tail tip, 59mm. ; femoral pores, 15 (left)-14(right). ; upper labials, 11-11. ; lower labials, 9-8.

タシロヤモリは沖縄以南の琉球列島（沖縄本島・宮古島・石垣島）および中国南部（台湾・福建・広東・雲南）・フィリピン・ビルマ・インドなどから知られる。台湾北部や福建北部の平地では個体数が多い普通種であるとされるが、琉球列島の少くとも市街地では多いとはいえない。恐らく生態的地位や渡来の時期がホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* とふれあい、関係しあうのではなからうか。

奄美大島の名瀬市内にはヤモリ *Gekko japonicus* とオンナダケヤモリ *Peropus mutilatus* がすんでいる（木場 1956, 1960）。ただ、近接の島々の例から考えるとホオグロヤモリやタシロヤモリ

* 大阪市立自然科学博物館業績 第91号



Figs. 1-5. *Hemidactylus bowringii* from Amami Oshima (OMNH. R-228).
 1. chin region, 2. upper surface of snout, 3. femoral pores on
 right femur, 4. underside of 4th finger, 5. underside of 4th toe.

の生態的な位置は空席となっているようで、今後この兩種（あるいはどちらか）が侵入し定着する可能性がある。このたび得られたタシロヤモリ1♂もすでに定着しつつある個体群の一頭であるのかも知れない。これらの問題については、改めて述べる予定である。